

第32回 法人会全国青年の集い岐阜大会の報告

平成30年11月9日（金）に第32回全国青年の集い岐阜大会が岐阜市で開催されました。全国の青年部会員を始めとする約2,460名（登録）が一堂に会し、当会からも2名が参加しました。

記念講演では、夫の両親が岐阜県郡上市出身の関係で、岐阜県図書館名誉館長を務め、自ら朗読座などを立ち上げ活躍中の女優紺野美沙子氏を招いて「今私たちにできること～未来のために～」と題した講話がありました。同氏は小さい頃から演劇に興味を抱き、女優となる夢を実現させ、現在に至っています。夢を持つことの大切さ、実現させるために自分として今何が出来るかを追求し続けてきた生き様を語られました。

1998年国連開発計画親善大使に任命され、カンボジア、パレスチナ、タンザニア東ティモール他、アジア・アフリカの途上国を訪問し、実際に見て、感じた経験を通して、今私たちがそれぞれの立場で、世界の為に、身近な人のために出来ることを一緒に考えましようと呼びかけをされました。

大会式典は、加藤大会会長の開会の辞に始まり、主催者である全法連青年部会連絡協議会中村会長、全法連小林会長の挨拶に続き、来賓の国税庁課税部長、岐阜県副知事、岐阜市長から祝辞を頂きました。その後、青年部会員増強運動の表彰や前日に行われた租税教育活動プレゼンテーションの審査結果発表があり、最優秀賞を受賞した石川県連金沢法人会青年部会による租税教育活動事例の発表が行われました。

子供たちに税の使途について考える機会を提供した租税教室の好事例であり、税の使途について、子供だけでなく家庭に持ち帰り、親と一緒に考えてもらう仕掛けを作っています。この租税教室は「つなぐ」をキーワードとして、税を考えることについて、法人会から子供たち、子供たちから親へと連鎖し波及していくことを目的とした有意義なものとなっています。

式典の最後は、「天下布武」発信の地から、法人会青年部会は、同じビジョンを共有し、常にチャレンジを続け、国や地域社会の未来を切り開く先駆けとなる決意を表明した笠原実行委員長の岐阜大会宣言で締めくくられました。

今回の青年の集いに参加して、法人会事業の柱である税制改正提言活動や青年部会を中心とする租税教育活動の全国展開等を通じて法人会の存在意義を確認し、法人会事業に携わる者としての誇りと自信を得、大いに意を強くしました。